

## 「負けるな！強く生きろ！」

若狭町立上中中学校 3年 宮谷 祐司

「うわ、こいつと同じ班になった最悪や！！」

「キモッ。こっちくんや！！」

僕は、小学生の時数知れずのいじめを受けてきた。それは、どれも耐えられない、いじめばかりだった。

僕は、日本とフィリピンのハーフで生まれ肌の色が多少みんなと異なっている。それにスポーツも勉強もあまり得意でなく、内気な性格だ。特にそれらのことがいじめのネタになっていた。

みんなにバカにされて、避けられて、何度も泣いた。何度も人を恨み何度も死のうと思った。

その気持ちを晴らすために、僕自身も他の人にも当たったり、かげ口や悪口を言ったりした。

しかし、いっこうに自分の辛い気持ちが晴れることはなかった。いつも、いじめた後の

罪悪感だけが残った。自分で自分の首をしめている感じだった。

そんな僕を救ったのが、あるテレビ番組だった。

その番組に映っていた子ども達は、貧しい生活をしていた。僕より年下なのに働いている子供達がたくさんいた。

しかし、その子供達は「生きよう」としていた。「生きるのが嫌になった。」とか、「死にたい。」なんて弱音を吐くこともなく、明日を生きることが出来るように、一生懸命努力していた。僕は泣いた。

僕は、今、自分が悩んでいることなんて、小さなことだと思った。

自分が住むこの世界には、こんな立派な子供達が住んでいる。なのに自分ときたら、いじめられただけで、「死にたい」と簡単に言っていた。自分がバカらしくなった。

その日から僕は強く生きることを決心した。

「強く生きる」とは、どのようなことだろうか。

力が強いから強いと言うわけではない。ケンカが強いから強いというわけではない。

本当の「強さ」とは、他人に何を言われても、くじけず、物事を何事もプラスに変え、困っている人がいたら進んで手を貸し、正しいと思ったことを迷わずできるような心を持っていることだと思う。

孤独と言う谷間に落とされたのならば、そこから、はい上がればいい。

「きたない花だな。」とバカにされたら、根を絶やさず伸ばし続け、誰よりも丈夫な土台を作ればいい。

この気持ちをしっかり持っていれば、誰でも本当に強い人間になれると思う。

こんな風に偉そうな事を言っているが、僕自身が強いわけではない。僕は今でもすぐ傷ついたり、悲しんだりすることが多い。

それでも僕は、強く生きたい。

今、いじめに耐えられず、自分自身の命を絶とうとする人がいるならば、お願いだから命を無駄にしないでほしい。死んでも何も解決しないし、どれだけの人が悲しむか考えてほしい。辛い気持ちは、よく分かる。

もし、くじけそうになったら、自分の心に「負けるな！強く生きる！」と言ってやってほしい。「自分は一人じゃない。」「世界中のどこかに絶対に手をさしのべてくれる人がいる。」と思って今を強く生きてほしい。

僕も強く生きていくから。